

(参考様式6)

農山漁村振興交付金（農山漁村活性化整備対策）  
事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	中名生・下名生地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
柴田町	043231	1	平成27年度～ 平成28年度	平成27年度
活性化計画の区域				
中名生・下名生地区は農業振興地域内の水田地帯であり、区域面積204haのうち農地面積は130ha（64%）を占めており、市街地を形成している区域は含んでいない。				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率（%） B/A	備考
定住等の促進に資する 基盤整備の円滑化	1年	1年	100%	

地形図の作成及び農用地等集団化事業により、目標としていた平成29年度にはほ場整備事業（農業競争力強化基盤整備事業）に着手することが出来た。

今後はほ場整備事業の実施により、住民の定住化が促進されると思われる。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
地形図作成	地形図作成 A = 104.7ha		柴田町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
柴田町	平成27年度	平成27年度	—
事業の効果			
<p>本事業を実施することにより、ほ場整備事業計画の作成にあたり、円滑に進めることが出来た。</p>			

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農用地等集団化	経営体育成促進換地等調整事業 A = 104.7ha		柴田町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
柴田町	平成27年度	平成27年度	—
事業の効果			
<p>本事業を実施することにより、地区内農地の利用状況や地権者の意向確認など円滑に行われ、担い手への農地集積・集約化を目標とした事業計画を作成することが出来た</p>			

3 総合評価

中名生・下名生地区は事業活用活性化計画目標のとおり、平成29年4月に事業採択を受け、ほ場整備事業に着手することが出来た。事業実施により担い手への農地集積・集約化や農作業の効率化などが図られ、安定した農業経営が行われることから、地域住民の定住化に繋がると期待される。

4 第三者の意見

中名生・下名生地区は10a区画のほ場が中心で、農道も狭く、特に農業用水の確保に苦勞している地区である。農地整備事業実現に向け実施された地形図作成及び農用地等集団化事業は、将来を見据えた事業計画をつくるうえで十分な成果があったものと考えられる。

柴田町農業委員会 会長 岩間 良隆